

久保・長江中学校区の学校再編に係る第2回保護者説明会（しまなみ交流館）議事録

- 1 日 時 令和5年6月2日（金） 18：30～20：40
 2 場 所 しまなみ交流館 ホール
 3 説明者 教育委員会事務局 11名
 宮本教育長、川鱒教育総務部長、小柳学校教育部長、末國庶務課長
 三浦学校経営企画課長、石本教育指導課長、石川庶務課管理係長
 安保学校経営企画課学校経営支援室長、宮崎学校経営企画課企画振興係長
 玉里庶務課主任、岡田庶務課主任

4 進 行

担 当	内 容
<p>教育委員会事務局 宮本教育長</p>	<p>18:30～</p> <p>1 開会</p> <p>2 教育長挨拶</p> <p>皆様こんばんは。この4月に教育長に就任いたしました宮本佳宏でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>お仕事等で大変お忙しい中、保護者説明会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。私の就任前のことではございますが、2月5日に第1回の保護者説明会を開催し、教育委員会の再編案につきましてご説明を申し上げ、皆様から多くのご意見をいただいたと聞いております。</p> <p>本日は改めて、教育委員会の案をご説明申し上げ、ご意見を頂戴したいと考えております。前回の保護者説明会では、小中一貫教育校では、どんな学校を目指そうとしているのか、そしてどんな教育を行おうとしているのか、ということにつきまして説明が不十分であったと感じております。そこで本日は、目指す学校像や、教育内容、学校の施設などにつきまして、より具体的に説明をさせていただきたいと考えております。そして、私からも、久保・長江中学校校区の学校再編についての教育長としての思いや考えもお話させていただければというふうに思っております。</p> <p>前回の保護者説明会から年度も変わりましたので、本日、初めてお越しになれる方もいらっしゃるのではないかと思います。これまでの経過やこれまで行った説明内容につきましても、遠慮なくお尋ねをいただきまして、実りある会になればと考えております。</p> <p>どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>（事務局自己紹介）</p>
<p>教育委員会事務局</p>	<p>（事務局自己紹介）</p>

<p>教育委員会事務局（三浦学校経営企画課長）</p>	<p>18:37～</p> <p>3 説明</p> <p>失礼します。</p> <p>これまで育友会・P T A役員と教育委員会との意見交換会や保護者・地域の説明会で説明してきましたとおり、現在提案している新しい学校は、これからの尾道の学校教育をリードする小中一貫教育校です。新しい学校では、「子供たちが切磋琢磨しながら生き生きと学ぶことができる学校」、「子供たちの夢の実現や社会的自立に向けた土台作りのできる学校」を目指し、教育環境や教育内容を整備し、尾道教育のスタンダードとして、市内小中学校の教育環境や教育内容の充実を図っていく上でのモデルにしていきたいと考えています。</p> <p>学校再編の案については、2月5日にしまなみ交流館にて保護者説明会を開催、また、3月25日から3月30日まで、小学校区ごとに地域説明会を開催し、様々なご意見をいただきました。本日は、各地域説明会の様子をお伝えするとともに、保護者説明会や全ての地域からご質問いただきました、小中一貫教育校の教育内容等について説明し、改めてみなさまにご理解をいただきたいと考え、第2回保護者説明会を開催させていただきました。よろしくお願いたします。</p> <p>本日は、最初に、改めて、学校再編案について説明いたします。次に、小中一貫教育校の教育内容について、具体的に説明いたします。また、小中一貫教育校の施設について、そして、これまでの経緯といただいたご意見について、説明いたします。</p> <p>まず、学校再編案についてですが、昨年11月22日にご覧のような再編案をお示ししました。久保小学校・長江小学校・土堂小学校は、1つの学校に統合、山波小学校は、1つの学校として存続、久保中学校と長江中学校は、1つの学校に統合し、久保小学校・長江小学校・土堂小学校の統合校と山波小学校の卒業生が、進学します。これらの3つの学校は、小中一貫教育校とし、令和7年4月開校を目指します。</p> <p>久保小学校、長江小学校、土堂小学校を統合した新しい小学校は、現在の長江中学校のグラウンドに、久保中学校と長江中学校を統合した新しい中学校は、現在の久保中学校グラウンドに建設します。いずれも令和9年度の使用開始をめざします。山波小学校は、これまで通り、現在の校舎を使用します。</p> <p>これまでの取組ですが、平成21年度から平成31年度にかけて、久保小学校、長江小学校、土堂小学校の耐震化の検討を行ってまいりました。</p>
-----------------------------	--

進入路が狭いこと、児童が居ながらでの工事が困難であること、改築や減築が必要な工事が生じたこと、また期間中に、土砂災害防止法に基づく警戒区域等の指定があったことにより、新たな校舎が建築可能な場所が限られ、現在地での耐震化を断念し、併せて、中学校を含めた検討を開始しております。

令和3年度において、安全性の確保を目的として、仮校舎への移転を行いました。

その後、今回提案させていただいております、久保・長江中学校区学校再編の検討を行いました。

仮校舎移転前より、中学校を含めた検討を行ってまいりましたが、学区内の児童生徒の推計を考慮し、よりよい教育環境の実現を目的として検討を行っております。

検討に当たっては、次の3点を基本的な考え方として、検討を行いました。

①の安全性の確保については、学校施設を含め、公共施設は、利用者の安全を考慮し、土砂災害警戒区域、特別警戒区域内に新たな整備は行わないこと。従って、敷地内と、周囲の大半が土砂災害特別警戒区域にあたる、長江小学校と土堂小学校の敷地には、新たな施設整備は行わないこと。

②の校舎の耐久性については、文部科学省は、大規模改修を行った上で、80年建物を使用することを示していますが、それ以上の建築年数が経過している場合、耐震化をしても、長期にわたり使用することは困難であるため、現在の校舎を、耐震補強して使用し続けることは行わないこと。久保小学校と土堂小学校の校舎は、築80年が経過しており、校舎の継続使用は行わないこと。

そして、③の適正な学校規模の確保については、尾道市教育委員会は、新たな学校施設を整備する際は、よりよい教育環境を確保するため、1学年複数学級となる学校規模での再編を行う方針としていること。久保小学校と長江小学校は、今後も全学年1学級が継続し、土堂小学校は、全学年が1学級となる見込みであること。また、長江中学校も全学年が1学級となる見込みであることから再編の検討が必要と判断しました。なお、山波小学校は、今後も1学年複数学級を維持する見込みであり、令和7年度での学校再編は行いません。

また、小中一貫教育校についてですが、学校の組織としては、3つの学校は従来通りそれぞれが独立した学校です。新しい小学校、山波小学校、新しい中学校のそれぞれに校長と教員組織があり、児童はそれぞれの小学校を卒業した後、指定学校となる新しい中学校に入学します。現

石本教育指導課長	<p>在、小学校と中学校は、それぞれが目指す子供像を設定し、6年間または3年間の教育課程を編成して教育活動を行っていますが、小中一貫教育校では、小学校と中学校が、共通の学校教育目標の下、目指す子供像を共有し、義務教育9年間を通した系統的な教育課程を編成します。義務教育9年間で教育課程を考えることにより、これまで以上に魅力的で子供たちに力を付けることのできる教育が可能になると考えています。また、教育研究の研究主題や、生徒指導規程等、学校運営上必要な事項の多くが小学校と中学校で共通となるため、授業や生徒指導において、教職員が、共通の指導方法で9年間児童生徒に対応することが可能となります。</p> <p>画面に出ているパンフレットは、これまでの説明会でお示ししているものです。このパンフレットで示している内容は、実現できるように検討しています。例えば、「知」確かな学力では、高学年への教科担任制の導入、「徳」豊かな心では、おのみち学、郷土愛の充実、「体」健やかな体では、健康で活力ある児童生徒の育成、「信頼」地域に開かれた学校づくりでは、新たな中学校区をコミュニティ・スクールとし、魅力ある学校にしていきたいと考えています。</p> <p>次に、小中一貫教育校の教育内容について説明します。</p> <p>初めに、小中一貫教育校で目指す児童生徒のゴールイメージです。</p> <p>小学校での学びの集大成として、「おのみち学」等で学んだことを発表する「伝統文化祭」のイメージです。このような場を設定し、保護者や地域の方と、子供たちの成長を喜び合いたいと考えています。</p> <p>中学校では、9年間の探究的な学びの集大成として、「まちづくり政策提案発表会」のイメージです。夢の実現や社会的自立に向け、地域に貢献することのできる生徒の姿を保護者や地域の方に見ていただきたいと考えています。</p> <p>これから新しい学校の教育内容面について現在構想していることを「目指す子ども像」「教育資源」「教育内容」の3点について、説明させていただきます。</p> <p>まず、小中一貫教育校の目指す子ども像は、「郷土を愛し、心豊かにたくましく生きる子ども」と考えています。ここには「子供たちが尾道で育ち学んでよかったと誇りに思い、自分の可能性に挑戦し、豊かな人生を切り拓いてほしい」という願いを込めています。</p> <p>9年間の学びで育てる力は、小中一貫教育校の出口を意識し、15歳の生徒に身に付けさせたい力として、広島県教育委員会が、自己実現を図っていくための基礎を義務教育段階で培っていくために設定している力と同様、「自己を認識し、人生を選択し、表現できる力」を育みた</p>
----------	---

いと考えています。

また、育てたい資質・能力として、学んだことを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力、人間性」等、実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力」等と考えています。これは、学習指導要領上示されている資質・能力であり、尾道教育総合推進計画の中でも、尾道の子どもたちに育成すべき資質・能力として掲げているものです。小中一貫教育校においても、これら3つの力をバランスよく育んでいくことが大切だと考えています。

これまで説明した資質・能力等を育成していくため、尾道らしさ、尾道ならではの視点を持って学びの在り方を考えています。そのために、尾道の教育資源である歴史、文化、産業等を確認しておきます。

「歴史から学ぶ」として、港町尾道の誕生と発展です。平安時代の第1期黄金時代では、尾道が年貢米の積出港となり、江戸時代の第2期黄金時代では、北前船の寄港地、西国街道や出雲街道による人と物流の交流点となり、明治時代の第3期黄金時代では、鉄道開通、銀行設立、市制施行等が行われ発展していきました。

「文化・産業から学ぶ」として、魅力ある歴史文化の継承です。尾道には、囲碁文化、茶文化、石工文化等が発展し、歴史的遺産としての国宝や多くの重要文化財があります。祇園祭、山波とんど行事、神明祭などの祭りも伝統文化として継承されています。また、尾道は3つの「日本遺産」、箱庭的都市尾道、村上海賊、北前船の認定を受けています。

そして現在、未来へ向けて、第4期黄金時代を自分たちが創っていくんだという気概に満ちた、世界とつながるものづくりや日本に誇る農林水産業が行われています。

「先人から学ぶ」として、尾道に誇りを持ち、尾道を愛し、尾道の発展に貢献された、平山角左衛門、三木半左衛門、山口玄洞などの先人や、自分の信念を持ちやり抜き、美術界、文学界の発展に貢献された、小林和作、林芙美子などの先人が、まちづくりや芸術文化について導いてこられ現在の尾道の発展につながっています。

このような尾道独自の視点を踏まえた学びを実現していくためには、次の3つを意識して教育内容を創っていくことが大切であると考えています。

1つ目は、「グローバルな学び」世界を意識した学びと、「ローカルな学び」尾道という地域を意識した学びを組み合わせることで教育内容を創造していくことです。

2つ目は、「個別最適な学び」児童生徒が自分の目標や進度にあった

やり方で学習を進めたり、自分の興味関心のあるものを選んで学習を進めたりする学びと、「協働的な学び」学級に限らず、異なる学年の児童生徒や地域の人々などと協力しながら、主体的に問題解決していく学びを組み合わせ、1時間の授業や単元を工夫した教育内容を創造していくことです。

3つ目は、1つ目の「グローバルな学び」「ローカルな学び」と2つ目の「個別最適な学び」「協働的な学び」を組み合わせ、9年間の学びを創造していくことです。

具体的には、「グローバル」な学びの創造として、世界につながる英語教育やキャリア教育を充実していきます。

英語教育では、小学校1年生から外国語活動を導入したいと考えています。1・2年生は年間20時間程度、学級担任とALTまたは非常勤講師により授業を展開し、3・4年生の外国語活動につなげていきたいと思えます。早期に導入することにより学ぶ意欲やコミュニケーション能力の向上に繋がることを期待しています。

近隣高等学校と連携することにより、小中学校ともに校内暗唱大会、スピーチコンテスト、ディベート等による表現力の向上が期待できます。

ALTを中学校に常駐させることに加え市教委ALTを小中学校へ派遣することで、小学校では学期に1日程度、英語以外の教科も英語での授業を試みるイングリッシュデーを、中学校では学期に1週間程度、英語以外の教科も英語での授業を試みるイングリッシュウィークが設定できないか考えています。英語以外の教科でも英語に親しむことにより児童生徒の興味・関心が高まったり言語能力が育まれたりしていくものと考えています。

また、友好交流都市である台湾嘉義市の小中学校とオンラインによる交流を続けるとともに、英語圏の小中学校とのオンラインによる交流も検討していき、コミュニケーション能力や発信力の向上を目指していきたいと考えています。

グローバルな学びでのキャリア教育では、地元企業や事業所等との連携により職業観、勤労観を育成していきます。

小中学校では、地元企業や事業所等への訪問学習や出前授業を企画、実行し、児童生徒が企業等の技術や、職業人としてのキャリア等を直接学ぶことを繰り返し、視野を広げ夢や志につなげてほしいと考えています。また望ましい職業観、勤労観を育成していきたいと考えています。

次に、「ローカル」な学びの創造として、総合的な学習の時間を核と

して、ふるさと「尾道」の特色ある伝統や文化を学ぶ「おのみち学」を充実していきます。

これまで各学校で引き継がれてきた伝統である、能、神楽、茶道、太鼓等の教育活動を再構成し教育内容とすることで、郷土を愛する心を育てます。

例えば、新しい小学校では、能や太鼓、山波小学校では神楽、中学校1年生では茶道というように小学校の地域性や児童生徒の発達段階も考慮しながら、礼儀作法を身に付けたり、日本の伝統文化を感じたりすることができるな教育内容を創っていきたいと考えています。

また、縦割りでの教育活動を取り入れ、児童同士、生徒同士の関わりを深めていくことや、中学生の姿から小学生が「あこがれ感」をもつような教育活動も仕組んでいけたらと考えています。

ローカルな学びのキャリア教育では、中学校では、地元企業等への職場体験活動や市内の高等学校や尾道市立大学への訪問を通した進路学習を行い、進路指導の充実を図り社会的自立に向けた力を育てていきます。

また、現在と同様に、小学校4年生で2分の1成人式を、中学校2年生で立志式を実施し、自らの志を立て、これからの人生を逞しく生き抜こうとする自覚・意欲を高めてほしいと考えています。

小学校6年生の2学期には、小学校段階の「おのみち学」等で学んだことを保護者や地域の皆様へ発表する場として、「伝統文化祭」のような発表会の開催を目指したいと考えています。

この画面では、開校2年目の令和8年10月24日に開催となっていますが、令和7年度に実施可能ということになれば開催していくということも考えられます。

小学校では、現在土堂小学校をはじめ、市内数校の小学校で実践している、学びの「基礎・基本」を大切にしたモジュール授業を展開したいと考えています。これまで積み上げてきている土堂小学校の実践を活かし、林芙美子、志賀直哉等の文学作品を取り入れた音読教材や尾道の産業やデータを取り入れた教材の開発ができればと考えています。

次に、9年間の「グローバルな学び」「ローカルな学び」と「個別最適な学び」「協働的な学び」を組み合わせた学びの集大成として、まちづくりへ参画し、商工業、観光、農林水産業、教育、医療、福祉等の視点から生徒自ら政策を提案していくような教育内容ができないか考えています。

中学校3年生のゴールイメージを中学校1年生の早期に持たせ、学習課題を設定、まちづくりへの政策提案をする分野を決定させます。職

場体験活動や進路学習も政策提案に向けた学習内容に組み込み、総合的な学習の時間を核とした「おのみち学」を充実させていきたいと考えています。また、これらの学習を通して、15歳の生徒に身に付けさせたい力を育成していきたいと考えています。

中学校3年生の2学期には、9年間の「おのみち学」等で学んだことの集大成を保護者や地域の皆様へ発表する場として、「まちづくり政策提案発表会」のような発表会の開催を目指したいと考えています。

この画面では、開校2年目の令和8年11月20日に開催となっておりますが、令和7年度に実施可能ということになれば開催していくということも考えられます。

スライドでは触れていませんが、中学校の部活動について、今後の休日の地域移行の動向にもよりますが、運動部、文化部の枠を超えて、地域活性化部というような地域に根差し地域を活性化させる目的をもって部活動を構成してみるのもいいのではと考えています。例えば、地域貢献部、ボランティア部、伝統文化部、能、神楽、太鼓、茶道等、ダンス部等が考えられると思っています。

以上のように、小中一貫教育校の柱になり得る教育内容について提示しました。これらは現段階の検討内容であるため、そのまま実現できるかは分かりませんし、新たなアイデアや考えによって再構成されることもあると思っています。教育委員会としては実現させていきたい内容となっておりますので、皆様方から意見をいただきながら精度を高めていきたいと考えています。また、今後統合に向けての機運が醸成されていけば、6校の教職員の皆さんと教育課程の編成やその教育内容について、これまでのパンフレットの内容や今日提示した内容も含め議論していきたいと考えています。

また、お示した教育内容を実現するためには、学校だけではできません。小中一貫教育校では、説明しました通り、地域を基盤に置いた教育を行ってまいります。そのため、小学校区の枠組みや学校の場所は変わっても、また、山波小学校においても、子供たちが地域に出向いたり、地域の方をお招きしたりして、これまで以上に、地域との関係を大切にまいります。そのため、地域のみなさまのご協力が必要となります。ご理解をお願いいたします。

岡田庶務課主任

ここからは新しい学校の施設について説明いたします。学校再編については、冒頭からの説明の通りです。

新しい統合小学校は、現在の長江中学校のグラウンド側のみを敷地とし、現在の長江中学校屋内運動場は老朽化のため建て替えとし、屋内運動場を校舎の中に配置した、5階建ての校舎を建築します。校舎の供

用開始は令和9年度からとなります。その後、屋内運動場のあった位置にプールを新設します。プールは令和11年度からの供用開始となり、それまでは現在の長江小学校のプールを使用します。

新しい中学校は、現在の久保中学校グラウンドに建設します。3階建ての見込みで、令和9年度の使用開始をめざします。

山波小学校は、これまで通り、現在の校舎を使用します。

中学校整備スケジュールです。校舎は、令和5年度から6年度にかけて設計を行います。令和7年4月から統合校が開校となり、そして、令和7年度から8年度までの2年間で工事を行い、その間生徒は、現在の久保中学校校舎と久保小学校仮校舎で学びます。令和8年度末で新校舎が完成し、令和9年度から新校舎での学習が開始されます。その後、既存校舎の解体等を行い、工事は終了します。

小学校整備スケジュールです。校舎は、令和5年度から6年度にかけて設計を行います。令和7年4月から統合校が開校となり、そして、令和7年度から8年度までの2年間で工事を行い、その間、児童は、現長江中学校の校舎と長江小学校の仮校舎で学びます。令和8年度末で新校舎が完成し、令和9年4月から、児童は新しい校舎で学ぶこととなりますが、令和9年度から10年度にかけて、現在の屋内体育場を解体し、プールの新築工事を行います。プールは令和11年度からの使用をめざします。

ここまで、施設の概略を説明しました。

ここからは、先ほどご説明しました新しい学校での教育を実現するため、施設面で新しく取り入れる機能を説明します。

大きく3つのものを取り入れていく予定です。

- ①ロッカースペース導入による専門科目教室の設置
- ②ワーキングスペースの設置
- ③プロジェクター方式の黒板の導入

です。詳細については、次のとおりです。

まずは、①のロッカースペース導入による専門科目教室の設置ですが、これは、今まで各教室に配置しておりました個人のロッカーを、ロッカースペースとして別の場所に設置し、教室からロッカーをなくします。一日の始まりは、荷物をロッカースペースへ収納し、1時間目の授業は時間割教科の教室からスタートします。このことにより、今まで普通教室としか機能していなかった教室を、国語や英語や社会などの専門科目教室として使用することが可能です。各教室内は、その教科に特化した掲示や備品を整理でき、中学校をはじめ、小学校における教科担任制への手助けとなると考えています。

この度提案しております案の検討にあたり、教育委員会も他校の視察を行っており、先進的な取組例を参考にしております。例えば、こちらは叡智学園の例です。特徴的な校舎の作りで全体像は取り込めませんが、水色の教室スペースに対し、赤のロッカースペースを設置し運用しております。

例えば、新しい中学校の整備イメージですが、従来までであれば、こちらのようなレイアウトが考えられます。多くは、64㎡の普通教室を整備し、各学級のクラスルームがあり、ロッカーも教室内へ設置している形状です。

こちらが、新しい学校のレイアウトイメージです。ホームベースと呼ぶロッカースペースを各学年1スペース設けます。各教室は100㎡程度とし、各教室のしつらえを教科ごととし、専門科目教室の充実を図ります。自分のHRは設置せず、教室の多様な仕様が可能になります。1年1組等のクラス編成は行いますが、1年1組の教室を固定しない朝夕のHRは1時限、最終時限の教室にて実施するというイメージになります。

次に、②のワーキングスペースの設置です。これは、スライド17、協働的な学びの実践のため導入するものです。これからの教育は、自分でテーマを設定し課題を探究するスタイルへと変化しており、グループワークを行うスペースの確保を行う予定です。イメージとしては、図書室付近にスペースを創出し、グループワーク中に図書室やタブレット端末で、自分で調べ物を行うイメージです。またこれに合わせて、各教室の面積を1.5倍にして教室内にもスペース創出しております。

叡智学園でのイメージです。ここでは各教室の真ん中にワーキングスペースを配置しており、図書メディアの近くでは、タブレット等を用いたグループワークが実践されてきました。

こちらが、新しい中学校のイメージです。校舎の端を利用し、ワーキングスペースが創出できるかと考えています。

こちらが教室内のワーキングスペースです。教室の後ろ側にスペースを確保するイメージです。すなわち、ワーキングスペースが複数個所設置でき、新しい教育への手助けになると考えています。

また、画面にあるような、黒板はプロジェクター方式の導入の考えております。先生の説明用に加え、各児童生徒のタブレット端末を写すことで、グループワークの成果の共有ができることに加え、ホワイトボードとしても利用できます。特にワーキングスペースなど、壁に投影できる特徴を生かし、充実した授業ができることが期待されます。

また、理科室等の特別教室の作りも、実験台を固定化させず、この教

<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>室を理科だけでなく、他の用途、例えば少人数教室等としても利用することを想定し、これまで以上に利便性を上げていく予定です。</p> <p>これらの施設は、中学校施設での本格的導入を考えています。</p> <p>小学校施設については、従来型の良さも活かしつつ整備を行いたいと考えています。小学校高学年でこれらの機能に触れることができ、中学校生活に移行できるよう体験的な意味合いで小学校では一部の場所です①～③の施設を整備したいと考えています。</p> <p>さて、学校再編案については、これまで、育友会・PTA役員さんとの意見交換会を中心に据え、ご意見を伺いながら、ご覧のように、保護者や地域の皆様を対象とした説明会や、議員の皆様への説明会を開催してまいりました。保護者・地域への説明会等にご出席いただいた方々の人数等については、資料3の通りです。また、資料4に3月25日からの第1回地域説明会でいただいた主なご意見やご質問を整理しておりますので、ご覧ください。なお、資料4記載のページ数は、尾道市教育委員会のホームページに掲載しております、各地域説明会の議事録の中の、同様の意見を多数いただきましたが、その内の代表的なページを示しています。第1回地域説明会では、土堂地域では、長江通りの安全確保、地域説明会の在り方、土堂小教育の評価、土堂小学校の現地存続について等、久保地域では、小中一貫教育校について、通学方法や通学支援について等、山波地域では、小中一貫教育校について、通学方法や通学支援について、統合のメリット・デメリットについて等、長江地域では、小中一貫教育校について、長江通りの安全確保、新しい校舎の地域開放について等のご意見をいただきました。また、今後、6月3日から小学校区ごとに第2回地域説明会、6月7日に第3回議員説明会を開催する予定としています。</p> <p>本日は、保護者説明会、地域説明会で、多くの保護者、地域の方からご質問をいただきました通学路の安全安心の確保について、現段階における取組状況について説明します。</p> <p>新しい小学校への主な通学路として考えられる長江通りについて、4月20日に教育委員会、長江小学校長、道路管理者である広島県、尾道警察署、長江小学校の育友会長さんで合同点検を行い、通学路の安全安心のため、何ができるか協議を行いました。その結果、次の二つについて、実施に向けて取り組んでいくこととなりました。</p> <p>一つ目は、長江三丁目の千光寺方面との交差点と旧長江小学校の前に注意喚起の表示や着色を行うこと、二つ目は、現在、北から途中まで引かれている</p> <p>を長江口近くまで延長することです。今後もどのような対策を行う</p>
-------------------	---

ことができるか検討し、通学上の安全安心の確保に努めてまいります。

また、新しい小学校への路線バスを活用した通学支援については、その可能性を検討しているところです。小学校3km以上としております学校統合の本市の通学支援の基準を踏まえ、通学距離や対象学年など、どのようなあり方が考えられるか検討してまいります。

また、山波小学校区の地域説明会では、山波地域から久保中学校への路線バスを利用しての通学について、今後、バスを利用して通学する生徒が増加することへの不安の声をいただきました。今年度は70名が路線バスを利用して久保中学校に通学していますが、現在の小学校1年生が中学校に入学する令和11年度には、山波小学校の児童全員が新しい中学校に進学する場合、111名まで増加する見込みです。利用生徒の増加に伴い、バス車内の混雑が考えられることから、今後も児童生徒数の推移に注視してまいります。

尾道市では、安全な給食提供を継続するために、市内の老朽化した給食施設を計画的に整備していくこと、また令和8年度からは、市内全中学校での全員給食開始を目指し、施設整備事業に着手しています。

現在、関係する小学校では、栗北学校給食共同調理場から給食を配送しており、また、関係する中学校ではデリバリー給食を提供していますが、新たに高須地区に2,500食規模の給食センターを整備し、今の予定では、統合校、久保小学校、長江小学校、土堂小学校、久保中学校、長江中学校のほか、三成小学校、栗原北小学校、吉和中学校、日比崎中学校、美木中学校へドライシステムの調理場から給食を配送する計画として事業を進めています。

また、食育については、既に取組の一例として栗原北共同調理場では、調理作業の映像を撮影し、関係校の児童が視聴できる取組なども行っていることから、自校給食の学校のみならず、新センターからの配送となる学校においても、その取組は継続すること、また新施設の中にも調理場内での作業が見学出来るスペースを整備する予定であること等、いずれの学校においても、同様の食育の取組が出来るよう計画していきます。

また、児童生徒への配慮についてのご要望をいただきました。令和7年度の統合に際しての、児童生徒の不安や負担は大きいものと考えています。そのため、前の年の令和6年度から児童・生徒間の交流を行うことで人間関係を構築してまいります。また、統合時に中学校3年生となる生徒が、スムーズに新しい中学校に馴染むことができるよう、各学校の授業進度や授業内容を合わせていくとともに、久保中学校と長江中学校にある部活動の種目は、当面維持することで、所属していた部活

宮本教育長	<p>動がなくなるのではないかという生徒の不安を払拭してまいります。そして、久保中学校と長江中学校の地の利を生かして、部活動の合同練習を行っていくなど、部員同士の交流を深めてまいります。</p> <p>最後に、新しい学校の開校時は、各小学校、中学校から教員を配置することで、児童生徒の不安を可能な限り解消できるよう努めてまいります。</p> <p>長くなりましたが、以上で終わります。</p> <p>なお、今後、第2回地域説明会を予定しております。</p> <p>久保地域は6月5日、長江地域は6月7日、土堂地域は6月3日、山波地域は6月6日に行います。</p> <p>この後、質疑応答を行います。その前に、今年度就任しました宮本佳宏教育長が、学校再編についての思いを述べさせていただきます。</p> <p>では失礼します。久保小学校、長江小学校、土堂小学校、山波小学校、久保中学校、長江中学校、この4小2中というのは、長い歴史と伝統のある素晴らしい学校ばかりでございます。</p> <p>そうした中、そして、私は土堂小学校の校長もさせていただいておりました。大変複雑な気持ちでございますけれども、学習集団の適正な規模を図り、子供たちの教育環境を充実させる観点から、現行の計画で学校再編を進めていきたいと考えております。学校を再編し、新しい学校をつくるにあたりまして、まず大切にしたいこと、これは、それぞれの今の学校の良いところをしっかりと継承するということでございます。</p> <p>その上で、変化の激しい未知なる課題にこれから突き当たるだろう子供たち。この現在の教育課題を踏まえて、私は新しい学校をこんな学校にしたい、と考えているところです。まず、子供たちにとってこの新しい学校の勉強が楽しいと思える学校、保護者の皆様が、この新しい学校は、これまでの学校の良さを生かしながら新しい教育が行われていると思っただけの学校、そして地域の皆様にとりましては、地域を大切にし、郷土愛を育てながら新しい教育をしていると感じていただける学校でございます。そして、県内・県外の先生方から、尾道にできた新しい学校は凄いぞ、尾道に行って、その学校の子供たちを見てみたい、そう思っただけ、そんな学校を創る決意でございます。</p> <p>先ほどのプレゼンの中に、私の強い思いで組み込んだ教育内容がございます。その思いをお話させていただきたいと思っております。まず、モジュール学習の導入でございます。私は、土堂小学校の校長としてモジュール学習を3年間、この目で見て、実際に取り組んでまいりましたので、その有効性は実感しております。モジュール学習というのは、15</p>
-------	---

分程度の短い時間で行う学習で、音読、計算、漢字などを繰り返して定着を図る学習であります。新しい小学校や山波小学校でもこのモジュール学習を行い、集中力を養うとともに、基礎・基本の学力をしっかりと育成していきたい、そう思っています。

二つ目は、これからの新しい教育授業のイメージについてお話ししたいと思います。先日、大崎上島町にある広島叡智学園に行きまして、これからの時代に求められる新しい授業の姿を見てまいりました。すると、叡智学園に行っていない教育委員会の職員から、自分も叡智学園に行かせてほしいと次々と声が上がりまして、来月10名の職員が再び叡智学園に行って、授業を見てくることになっています。広島叡智学園の教育を尾道の公立学校に合う形に再構成し、取り入れていく。

叡智学園で行われている授業もとに、新しい授業イメージとして国語を例にお話をさせていただきたいと思います。小学校で、物語文の学習をするということを例にしてお話しますと、これまでは、先生が「今日は登場人物が何々したときの気持ちを考えましょう。」と、先生が学習課題を提示し、教師主導で、子供は受身の姿勢になりがちでありました。これからの新しい授業のイメージは先生が学習課題を示すのではなく、子供たちが自ら読み、子供たちが学習課題を決めて主体的に学習を進めていく授業であります。例えば、4・5人のグループで、個別に文章を読みます。次に、4・5人で考えを深めてみたいということ学習課題として、それぞれの子供が発表し合い、自分たちのグループの学習課題はこれにしよう自分たちで決めてさらに読みを深めていく授業でございます。

この授業は、真の意味で子供たちの主体性から生まれる学習となります。同じ物語を読んでも、人それぞれに感じ方や考え方が異なり、唯一の正解があるのではなく、いろんな正解があることに気づくと思います。そうして、多様な見方、考え方、感じ方を尊重できる、そうした感性を養うことにも繋がります。

ここで大切なのは、このようなグループがいくつもあるということです。他のグループの考えたこと、聞いてみたいなああと、そういった新しい学習意欲が生まれ、互いにグループで発表をし合い、気付き交流し合うことにより、子供たちの学びがより広がったり、深まったりして、大きな学習効果が期待できると思います。

次に、先ほどありました、グローバルな学びの英語教育についてあります。これからの子供たちにとって英語力は必須であります。よって、小学校1年生から英語教育を初め、尾道の中学校3年生は全ての生徒が、日常の会話ができる、そういうレベルの英語教育を行いたい

と、今いろいろと考えているところです。そのためには、学校生活の中で、英語を使って聞いたり話したりする場面を、今より劇的に増やしていくということが必要だと思います。例えば、全校朝会で校長先生が、今、日本語でお話されておりますけど、その一部を英語で話していただく。子供たちに、校長先生、少し英語で話したけど、どんなことを伝えたかったと思う、というようなことを聞いてみていただく。その後、実は日本語で言うと、こういうことを言ったんだよ、というふうに話をしてもらおう。子供たちがお昼に行く給食放送を給食委員会が放送していますけど、給食委員会が学校で放送をかけています、こうしたことも基本的には英語で行ってもらおう。小学校は学期に1日程度、中学校は学期に1週間程度、英語だけで生活するような、そういう時間を意図的に作る。ただし、子供たちが困らないように、小学校1年生から学校生活に必要な英語を教えて、子供たちが英語を使って生活できるように支援していく。オンラインを使って海外の学校と英語で交流したり、尾道に観光に来られた外国人の方とリアルに英語で交流をしたりする。こういうことが大事じゃないかなというふうに思います。こうした教育を実現するためには、先生方や子どもたちが困らないように、英語の教員やALTの配置、英語に堪能な地域の方々など、そうした方々を学校に来ていただいて、子供たちを支援する、先生を支援する、そうした方策を考えたいというふうに思っています。

ローカルな学びということであると、先ほど尾道学ということがありました。この地域には、誇るべき歴史、文化、産業があります。偉大な先人の方がいらっしゃいます。こうしたことを教材として活用し、生活科や総合的な学習の時間で、尾道学として、探究的な学習を行いたいと思います。探究的な学習とは、先生が教えるのではなく、子供たちが興味関心を持ったことを学習の出発点とし、子供たちが学びたいことを学びたい方法で、とことん調べて、それをまとめて発表する、一連の学習を指しています。この学習は、未知なる環境への適応力を身につけるため、これから新しい教育として、どんどん普及していく、そういう学習であります。

ただし、この尾道学の取組には、地域の皆様や保護者の皆様の協力が絶対に必要です。先生方の負担を軽減する意味でも、歴史、文化、産業などに詳しい地域や保護者の皆様の、ゲストティーチャーとして積極的に招きし、尾道学の充実に繋げていきたいというふうに思います。

尾道学のキーワードは地域貢献です。そのため学習のゴールとして小学校では伝統文化祭、中学校ではまち作り政策提案発表会を考えたということです。中学生の新しい独創的なアイデアで、新たな尾道

名物や尾道を活性化する、新たな産業が生まれるかもしれない。そんな学習にしていきたいと思っています。

在校生や先生方への配慮ということについてお話をいたします。先生方の意識が統合ばかりに向いて、統合のための労力や時間が取られるので、統合前に卒業する在校生の教育は大丈夫なのかと、心配をされていらっしゃる方もおられると思います。絶対に在校生の教育がおろそかになってはいけません。今学校に通って頑張っている在校生の教育に支障がないように、在校生や先生方への配慮をしっかりと行う。また、学年の途中から新しい学校に編入することになる在校生への配慮は、当然しっかりと行っていきたいと思っています。学校を統合するまでの期間に、合同学習や合同行事、新しい学校にスムーズに適用できるようにするための体験的な学習を実施します。新しい学校における教育内容や教育方法を事前に説明し、子供たちがワクワクドキドキして開校日を迎えることができるようにしていきたいと、そのように思っています。また、子供たちや保護者の皆様が安心できる教職員の人事。先生方もスムーズに新しい学校で教育活動ができるようにするための研修を、できるだけ負担をかけないような方法で行ってきたいと思っています。

終わりになりますけれども、小中一貫教育校は、これからの尾道の学校教育をリードし、その成果や方法は市内の他の学校へ普及し、尾道全体の教育を新たなステージへと引き上げていくものです。それを実現するためには、教育委員会だけでは無理です。地域・保護者の皆様のご理解とご協力が必要です。どうか、私達と一緒に、この新しい学校を作ってまいりましょう。よろしく願いいたします。

19:05

4 質疑応答

教育委員会事務局

教育委員会の説明に対して質疑を受けていきたいと思っています。質問のある方は挙手の上、マイクの前まで行って、所属している学校名を名乗ってからご発言ください。それでは質問はございますでしょうか。

保護者①

本日もありがとうございました。

宮本教育長のお話、とても分かりやすく分かりやすく、今までどういう教育内容になるのかなって、ちょっと分かりにくかった部分が分かってきて、ありがとうございます。先日のPTA役員と市教委さんとの意見交換会の時に、最終的なゴールのことについて質問があって、それに対して、小柳教育部長が、最大多い人数を私たちの案についてご理解

<p>小柳学校教育部長</p>	<p>していただくように、とご回答いただいたが、最大多い人数っていうのが、はっきり分からなくて、どうなのかなと、不安というか疑問というのがあって、例えば、学校ごとで子供たちの置かれている環境が違うので、全部の小中学校の家庭数でいうと、約900家庭あると思うが、900家庭のほぼ大半が承諾しているので進めますという、全部をまとめた形ではなく、小学校、中学校、それぞれの学校ごとに意見を聞いていただいて、最終的に判断していただきたいなと思う。その辺はどうか。学校ごとにちゃんと向き合っていただけなのか、お聞きしたい。</p>
<p>保護者①</p>	<p>先日の意見交換会のところで、最大多い人数ということでお話をさせていただいたが、私達、教育委員会としては最大多い人数というのは今まで4小2中の保護者の方、地域の方も含めて、極力多い方に私達の今の構想についてご理解をしていただいて、新しい学校を創っていこうという意識の醸成を極力努力させていただく、そういった意味で言わせていただいた。そのため、900家庭の何%が、というようなことは考えていない。それと、小中学校ごとの意見を聞くのかということがあったが、私たちは、まず、今のところ言うと、6月7日に地域へ出る、それから議員の皆様の説明させていただく、そこまで公にはしているが、その後は、やはり、各小中学校のPTAにも集まっていたり、個別に説明をさせていただいたり、お話を聞かせていただいたり、そういった場も、今後は考えていかなければいけないということで、また意見交換会等でもご提案させていただこうということで準備を進めている。</p>
<p>住民①</p>	<p>ありがとうございます。土堂小学校の保護者だが、先日、保護者説明会を行った後にアンケートを取られたが、その結果で言うと、未回答の家庭もあったが、賛成が42家庭で、反対が73家庭あった。やはり反対の方が多というアンケート結果になっていて、それに加えて、地域でもアンケートをとられていて、地域アンケートも、やはり80%近くの方が反対、未回答の方もいらっしゃるが、反対という回答が集まっている。なので、そういう状況なので、また6月の議員への説明の後も、こういう場を持って、学校ごとの意見を聞いてくださるとおっしゃったので、またよろしく願います。ありがとうございました。</p>

<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>ことが言えると本気で思っているのか、他の方策は全く考えてないのか。それを伺います。</p> <p>ご質問ありがとうございました。先ほど長江通りの安全・安心ということで、いくつか現段階で検討してお答えできることについては回答させていただいた。もちろん、今おっしゃったように、グリーンベルトが道路の両側に引かれるけども、長江通りまで引かれたということで、完全に子供たちの安全・安心が確保できるかということ、そうではないだろうと思う。ただ、今までの説明会の中でも、地域の方からも保護者の方からもご不安の声をいただいたので、現段階において一歩でも二歩でも、できることはやっていこうということで、関係機関の方に集まっていたいて、できることを検討したということだ。当然、今後についても、一つ一つ何ができるかを検討していく。その中で、先ほども少し申し上げたが、まだこれは何人、どの学年、どの距離ということはお約束ができないが、路線バスを活用した、通学支援といったものを検討始めているので、そういったことも、また今後、皆様のご意見をいただきながら、対策として検討していきたいと思っている。</p>
<p>住民①</p>	<p>通学路については、雨の日などは子供たちが傘を差して行っている。すると、長江通りは一方通行と言いながら、バスなどが通る。そういう時には非常に危険である。今でも表に出ない事故、小さい事故は、もう盛んに起きている。そこらをどのように考えておられるのか。晴れた日ばかりではないので。雨が降った日には、傘を差して、子供のことから、綺麗に真っすぐ行けと言っても、聞かないこともある。そういうことも含めて、当初から言われているのがグリーンベルトだけ。それより先は進んでないと、私は思っているけれども。今後はどのように子供たちの安心・安全な通学路を目指すのか、それについて、何か方策でもあれば、聞かせていただきたい。</p>
<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>ありがとうございました。今、雨の日ということがございましたけれども、おそらく今日のような雨の日は、子供たちも道路、交通安全に気をつけて学校に通っているのではないかというふうに思っている。我々も、長江通りは何度か実際に歩いて、状況については、自分の目で確認をしてきたが、その時にも、おっしゃるようにバスが通ってきた時の状況であるとか、おそらく雨が降った時には、傘を差して子供たちが歩く、というようなことは想定できる。それに対して、今後ということだが、今お話ししたように、グリーンベルトであるとか、安全注意表</p>

<p>宮本教育長</p>	<p>示、これだけで100%、安全が確保されるというふうには、自信を持って言うことはできない。なので、今、路線バスの活用等もお話ししたけども、今後も皆様のご意見を伺いながら、どういった方法ができるかということは考えさせていただきたいというふうに思っている。</p> <p>私も、4月に就任して以来、2回、西御所から長江中学校まで、朝、子供たちが通学する時間に歩いてみた。また、下校する時間も、そのあたりのところを把握しに行った。それから、尾道駅からバスに乗って、長江中学校の所で北高入口というバス停で降りた。7時28分のバスに乗ったが、結構座席が埋まっている。これに子供たちが入ると、座るのはちょっと難しいなと思って、そうすると、今の形のバスに子供たちを乗せるということを考えた時に、じゃあどうしたらいいんだろうというのは、まずは状況把握しないといけないということで、歩いてみたのと、バスに乗ってみた。それで、バスに乗るためにはどのぐらいな予算が必要なのかということも、かなり調べなくてはいけないので、そういった資料作りも今やってるところだ。</p>
<p>住民①</p>	<p>学校の授業内容その他についても、ずいぶんしっかりしたこと研究されておられるが、やはり子供たちの通学、学校に行くことが、安心していかないと始まらないわけだから、そこはもう今までのようにグリーンベルトを引いたらOKだというふうな考えは捨てて、また新たな、それはあちこち似たところがあるので、行政視察などに行ってみて、調べていただければと思う。それともう1つ、平谷市政になって、向島中央小学校の建て替え工事に当たり、向島の三幸小学校を向島中央小学校に統合するという案が出され、新築計画は、三幸小学校分の教室、給食施設も含まれ、建設されている。だからもう当然、三幸小学校も来るものと思って、建設がされているということ間違いないか。これに対して、三幸小学校のPTA、地域住民等と、何度か今、私がやっているような説明会を開いてやりとりした結果、地域が了承するまで教育委員会として、統合を強制しないと約束して、今日に至っている。2015年3月に完成して、8年過ぎているが、未だに統合の話は聞かない。これも事実。それで、もし今このように土堂あたりでは80%が反対していると、地域も反対だという状況があるならば、ここへ向島中央小学校、三幸小学校方式にならえば、問題は解決するのではなかろうかと考えているが、いかがか。</p>
<p>小柳学校教育部</p>	<p>三幸小学校のことについてのご質問だったと思うが、まず三幸小学</p>

<p>長</p>	<p>校については、市教委として、学校再編計画の中で提案をさせていただいたが、最終的には保護者のご理解を得ることができなかった。ただし、先ほど言われた中で、地域の方は、教育委員会が提案した当初から、基本的には保護者の判断に委ねたいというご判断をいただいて、保護者の方と話し合いを繰り返していったという経緯があるので、若干把握されている中身と私たちの認識は違うのではないかというふうに思う。三幸小学校については、なぜ、ご理解がいただけなかったのかと申すと、校舎が新耐震の校舎で安全性があるということと、他の学校に比べて教室が極めて広い、一教室あたりが広いということ、それから、私たちが提案した内容について、二段階で向島中央小に三幸小学校を最初に統合して、その後高見小学校統合するという、二段階の統合案であったことで、なぜ三幸小が先に統合しなければいけないのかというところで反発をいただいたし、また、当面、複式学級にはならない、現在もなっていないが、というようなこといただいて、教育委員会としても、この向島中央小学校の新校舎に合わせて、三幸小学校を統合させていただきたいということで取り組みをさせていただいたが、これについては、当面の間、統合に係る提案は行わないということで、今のところは協議をしていない。</p>
<p>住民①</p>	<p>今聞くと、まさにこの3校統合の問題と、ほとんど合致するんじゃないかと、私はそう考えるし、見えるし、向島中央小学校を建てる時には、三幸小学校の統合ありきということで建てられたと思うが、ただその結果として、三幸小学校では、なかなかうんと言わなかった。だからそれに対して、教育委員会としては、来てくれるまでは待つてようかというふうな、非常に柔軟な姿勢をとってこられたと思う。ただいま3小学校の統合については、かなり強硬な姿勢が見えるが、大きい違いはどこかあるか。私が見るとそんな違いはないと、こういうふうなことをやられている教育委員会それはそれでいいのじゃないかと思うし、永遠に土堂小学校が単独で続けるということではなくて、やっぱり時代の流れがあるから、そういった中で、今はちょっと難しいけども、将来的には、今の長江中学校へできる統合学校に行くということも十分考えられると思うがいかがか。</p>
<p>小柳学校教育部長</p>	<p>三幸小学校の今の状況と、現在の学校再編の提案している中身というのは、私どもは大きく違うと思っている。一番の違いは何かというと、やはり校舎に耐震性があるということが一番に挙げられるというふうに思う。三幸小学校は、校舎も耐震されており、安全性が確保され</p>

	<p>ている。しかしながら、現在の久保、長江、土堂小学校においては、耐震性が確保されていない、安全性が確保されていないということから、今、仮校舎に移っていただいている。この仮校舎の状況を、私たちとすれば、お約束をしていた令和7年度の段階で解消していきたい、ということなので、私どもの認識では、三幸小学校の取組と、現在の取組は、大きく異なると思っている。</p>
<p>住民①</p>	<p>それは恣意的にやられたのではないのか。例えば、私は、市役所を建てる前に、「3小学校の耐震化が先でしょう。」と言ったことがある。その時に、よし、とにかく市役所新庁舎を建てさせてくれと、終わったらすぐやりますから、というふうな返事をもたらしている。しかし、それができた後は、統合というふうな話が出てきた。だから、今言う耐震化ができてないのは、やらなかったらできてないのであって、できてないのは土堂、長江、久保小学校だけだ。だから急いでやってくれということもお願いしたけれども、それをやらないで、できないことばかりをずっと羅列してこられ。工事車両入らないとか。急傾斜地の問題があったりとか。それはあるけれども、それはそんなに難しくない。耐震化についても、築80年ちょっとではできないことはない。例えば、今の住友銀行跡、これは耐震化やっているけども、買った当初は、耐震化率も把握していなかった。BANKというけれども、あそこは耐震化できて、土堂はできないということは、一般的に考えてもおかしいんじゃないかと思われるけれども、そういうふうなお考えはないか。</p>
<p>宮本教育長</p>	<p>ご指摘のように、当初耐震化できるという話を、私も土堂の校長の時、そういう説明を最初受けた。それから、居ながら耐震ができないということになって、そして今度は統合ということで。本当に、関係の学校の地域の方、保護者の方、子供たちに、本当にご心配をかけて、不安に陥れるような、そういったコロコロとした変更がなされた、私の就任前の話だが、それについては、今お怒りのお気持ちは本当によく分かるし、申し訳なかったなど、今、私は教育長という立場だから、教育委員会としてそういった不安や心配をおかけしたということについては、申し訳なく思っている。その上で、やはりこれからの新しい教育を一定規模の集団で実現していくためには、やはり統合をしてよりよい教育環境を作っていくということが大切だと思うので、その点についてご理解いただきたい、そう思っている。</p>
<p>住民①</p>	<p>ただそこは理解できない。というのが、やり方が、なぜこういうふう</p>

になっていくのか、当初市役所を建てる前には、3校の耐震化をお願いしたら、やりますと、私は設計図も見ました。居ながらもできるということまで聞いている。それで、もし本当にやる気があるんだったら、今子供たちが千光寺の上で勉強しているから、空いているのだから、校舎を残そうという気があるのなら、耐震化は十分できている。どの学校も。なぜそれをやらなかったのか。そこもちょっとお伺いしたい。何か意図的に感じる。この問題については、非常に難しいから、今すぐここで返事をいただくというのではなくて、今言ったような、三幸小学校と向島中央小学校の件をもう一度考えていただいて。それをやっても、皆さんが思う、例えば長江、久保はどちらかと言うとOKだというふうな考えも持っている、となれば、とりあえずはできるのだから、そっちの方をしてからやるべきじゃないか。そういう考えをお持ちでないか。

宮本教育長

やはり、土砂災害の危険性、特に土堂も、私も3年間勤務したけれど、今日みたいな大雨が降ったら、今まで大丈夫だったから、これからも大丈夫だろう、とそういう考えを持つのは、これからは適切じゃないと思う。まず、そういう土砂災害の危険性があるって、特別警戒区域等になってしまっているという所に新しい施設は造らないという市の方針であるので、これはやはりどうすることもできない。そう思う。

住民①

それは、ちょっと違って、土砂災害急傾斜地の問題については、ランクがある。ご存知か。何段かあるか。急傾斜地の段ランク付けがある。そのランクの中で、5段階ある。土堂小学校が一番下だ。私も5年前の災害時には、ずいぶんあちこち走り回って、崩れた所を直していったが、急傾斜地を直すのに、10m直して、1500万円だ。一番いいのだから、急傾斜地と言われるけども、それは、ある意味では、やる気ならば簡単に直す。今も長江の1ヶ所、これから工事にかかるが、20mが3000万円だ。だから、そういうふうなことも、知れた上で、急傾斜地の問題はやっていただきたい。何が何でもこうこうだ、危険なんだ危険なんだじゃなくて。長江中学校の東側の一部分も崩れた。これは民地だから手が出せないということで、直していない。そのこともある。やっていることと言っていることが違うということもある。現実問題として。今言ったことはすぐに答えてくれと言えないので。私は明日も行きます。今度、議員説明会にも行く。7日の地域説明会も出るつもりだ。そこまでに、しっかり考えていただいて、私もこれをいたずらに長引かそうとか、思っていない。だから、建てるのな

ら、そうして、2校が入った、向島中央小だけでも建て直したということがあるわけだから。それができた後に、地域がぼつぼつ子供の教育に問題ありだということになれば、やっていけばいい。また土堂小学校がいても、耐震化ができていれば、あの地域においては、公民館もないし集会所もないし、避難所もない。そういうふうな状況なので、今、小中学校の校舎が避難所になりつつある。体育館はもうほとんど使えない。体育館は使わないで、校舎を使うというのが主流になっている。いろんな問題があるわけだけれど、今広島県は、呉市がそういう校舎を使った避難所を作っている。だからそれは南海トラフ。あるいはそれに準じた土砂災害。そういうのがあって、人の命を守るのが一番の仕事だから、私らもその事は全部言ってきた。そういう意味において、土堂には避難所もないのだから、そこを耐震化して、もしもの時に使えるということも考えに入れて、もう一度熟慮していただきたいと思う。私は建て替えに反対とかじゃないので。それをやるのでも、納得がいった統合をしていただきたいと。何が何でも3校統合だというのではなくって、そういうところをしっかりと考えて、柔軟に対応していきたいと。この向島中央小学校と三幸小学校の件については非常に評価できる策だと思っている。一つそれを考えていただいて、また、あと3回あるので、ぜひよい返事を聞きたいと思っている。よろしく願いいたします。

住民②

明日も出席をさせていただくつもりだが、前回の地域の説明会の時にも感じたが、先に教育委員会の方からいただいた資料に基づいて説明をいただくが、それがとても長くて、地域の皆様もすごくしんどかったという意見を伺った。できるだけ、前回の説明会もすごく長引いて、皆さん、地域の方も質問事項が多かったのも、まだあるにもかかわらず、途中で終わったみたいな形になってしまった。そういうことがないように、地域の説明会に関しては、今日聞いた中で特に教育というか、そここのところで、今まさに土堂小学校でも実践されている郷土愛を育んだりとか、尾道学のところとか、そういうところは土堂の地域の説明会では、もう必要な部分ではないかと思う。もうすでに行われていることだし、毎回、前回の時もその話はいただいているので、そこはちょっと短めにカットしていただいて、その中でも教育の英語教育のところはとても関心があった。そこは、お話を伺ってもいいと思うが、宮本教育長の後ほどのお話の中でも十分そここのところは踏まえてしっかり分かりやすく説明をしていただいたので、前半部分での抽象的な部分の説明のところは少し短めにしていただいて、質疑応答へ、今日はそんなにはなかったが、明日の土堂学区の地域説明会では、できるだけ地域

	<p>の方々のご意見を聞きたいと思うので、教育委員会からの次第にある、冊子にある中にある読み上げる項目を少し短くしていただいて。新しい部分だけの後半部分の施設の部分は叡智学園を見学されて新しく取り入れようとされている部分は、もちろん興味があるので、そのまま説明は伺いたいと思うが、前半部分のちょっと今まで何回もお聞きしている部分は、少しでも短くして、質問質疑応答の部分が十分時間をとっていただけるようにも配慮していただければありがたいと思う。よろしく願いいたします。</p>
<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>はい。ありがとうございます。ご意見ありがとうございました。地域の方々もたくさん意見をさせていただけるというか、そういうふうにするので、しっかりと我々も聞いていきたいというふうになっている。ただ、本日ご説明差し上げたことが、一つは、今日は保護者説明会だが、新しく1年生なられた方とか、初めていらっしゃる方もひよっとしていらっしゃるかもしれないということで、これでも少しちょっと短くはしたつもりだが、概略についてお話させていただいたということと、やはり教育内容というのは学校を創る上での根幹であるので、もちろん英語のところも大事であるし、施設のところも大事であるけれども、ローカル、グローバル、そういった学校教育の全体像についても我々は非常に重要なことだというふうにとらえているので、どうか少し時間をいただきますけれども、ご容赦いただきたいとは思っている。</p>
<p>保護者②</p>	<p>すみません。土堂小学校の保護者です。今日ありがとうございました。スケジュールについて質問したいが、1月の終わりに役員向けの説明会で、A3の用紙で、年間の今後の統廃合スケジュールを出していただいたかと思うが、それはもう、今、あれ通りに動いているのかなと思っているのだが、それ通りに行く予定なのか。</p>
<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>はい。ありがとうございます。今我々が提案させていただいているのは、令和7年の4月に統合と、それから令和9年の4月に新校舎を使い始めるということでご提案させていただいているが、このスケジュールは、今の仮校舎を解消するというお約束が、7年4月ということだったので、そこを目指してやっていきたいという思いを強く持っている。そうであるとするならば、やはり開校に関する準備というものが必要であるので、そういった期間を踏まえながら、保護者の方にお配りしたスケジュール案念頭に進めさせていただきたいというふうになっているところである。</p>

<p>保護者②</p>	<p>今、改めてお伺いしたのは、今おっしゃられたように開校準備だったりとか、閉校準備、令和5年度はもう始まっているので、このスケジュールでいくと、あと1年半ぐらいしかない。開校も閉校もどちらも進めていくとなると、保護者の負担も、子供もそうだし、先生方の負担も多大なものじゃないか、というふうにごく不安を感じている。それ思ったのが、もう一つの理由としては、今年はコロナが5類になって、イベントの再開がすごく多いわけで、今年度だけでも全部とは言わないが、ほとんどのものが復活して、現場の保護者たちは、やっぱり忘れていた先生もあって、慌ただしくなっているところもある。そういった中で開校と閉校ということが、もう始まってくると、ちょっと1年半でやりきれぬのかで、閉校に関しても、皆さん思い入れのある学校を、きちんと綺麗な形でと思うと、急ぎ足でやりたいというふうに思っただけじゃないと思う。そういうこともちょっと念頭に置いていただいて、何が何でも令和7年4月と考えるのではなくて、そこはちょっと柔軟に、保護者さんとか先生方の負担も考えていただけたらと思う。それと、私の子供は今5年生なので、令和7年の中学校一年生になる年だが、さっき部活動が滞りなく、維持できるようにというふうにおっしゃっていたが、やっぱり中学校の生活の中で、部活動はかなり大きい活動を占めるので、例えば運動部に入っている子だと、きちんと大会に公式な状況で参加できるのかとか、そういったことも含めて細かく情報共有していただけたらと思う。あと小学校に関しても、子供会、今、小学校にそれぞれあると思うので、そういった活動もどういうふうに活動を共有するのか。それぞれ多分活動内容が違うと思うので、それも1年半でどうやって共有するのかと思って行くと、ちょっと不安であるので、その辺りもお示しいただけたらと思う。</p>
<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>ありがとうございました。いろんな負担がやはり生じてくるとは思っている。子供たちが、やっぱり統合に対する不安でもあるし、保護者の方も当然不安であると思う。教職員も今おっしゃったように、当然新しい学校を創るという時に、負担感なくできるということじゃなくて、やはり、将来こういう教育をやっていくとかいう研修であるとか、準備であるとか、一定の負担は生じてくると思う。ただ、今おっしゃったような、具体的には、部活動とか子供会とか、そういった不安おっしゃったけれども、そういったことを一つ一つお聞きしながら、お答えできるものはお答えしていくし、我々もできる限り不安を解消してということを考えていきたいと思うので、今のご意見はまた念頭に置いて進め</p>

<p>保護者②</p>	<p>させていただきたいと思う。</p> <p>はい。それがやっぱり、今後細かいところまで、お互いに小学校同士だったり、協力していくのに、その時間っていうのが、やっぱり皆さん、普段の生活で、お仕事とかもあると思うので、そう急ぎ足でなんとなくやっていくっていうよりは、もう少し丁寧にしていった方がいいのかなと思うので、1年半しかない時間の中をここしかないんだっていうふうに決めきってやるよりは、ちょっと無理のないスケジュールを組んでいただけたらなと思う。というか、やっぱりさっき同じことになってしまいが、イベントがやっぱりすごく増えてきているので、それだけでも話し合う量がめちゃくちゃ多い。やっぱり、それだけでも普段の生活に結構負担が大きくなってきているので、それプラスこれを始めるっていうのが、もう少し負担を減らしていただけるようなスケジュールだったり内容だったりっていうふうにしていただけたらなと思います。すいませんお願いします。</p>
<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>はい。ご意見としてお伺いいたしましたので、ありがとうございます。</p>
<p>保護者③</p>	<p>今少し抜けて出ていたので、重複する質問があったら申し訳ないが、私もスケジュールに関してはちょっと不安がかなりあって、今うちの子が4年生で、5年生を1年間、土堂小学校の保護者だが、千光寺公園で過ごし、令和7年度の6年生のときに統合し、今度、8、9、10を、1、2、3年生で過ごすことになる。このスケジュールにある中、全てで中学校を卒業するという状況だが、まず6年度、5年生のときに多分統合するということになると、他の学校の子のことを考慮していったりとか、これからどうするのかっていうことになると思うが、正直、5、6年生の大事な時期に、そこに時間を割かれるっていうのはすごく不安である。その短いスパンの中で、ごめんなさい、やっぱり自分の子供がベースで考えるので、なぜこの短い時間なんだろうか。というのがすごく不安である。今日、新しい学校についてすごく詳しく説明してくださったので、去年までの不安とまた違うと思うが、それを、例えばだが、先に学校があったので、教育委員会として見学に行きました、で、見学に行って、とても良かったので、小中一貫校を創りたいと思ったんですって言われたら、もっと心情的には違うんじゃないかなと思うが、先に統合ありき、校舎を建てるのがありきで、後から見学に行きましたとか、どこそこが良かったですとかって言われているので、正直やっぱ</p>

りスケジュールが先、後からついてきているんじゃないかとの思いはとともある。この令和7年度統合に関しては本当に見直しをしていただきたいと思っている。もう、あと1ヶ月半で夏休みが来るけれど、残りの1年半、例えば先生だったりとか、子供たちだったりとか、じゃあ、統合校で新しい生活に向けて準備ができるのかっていうと、到底できる時間じゃないと思っている。先生の、例えば統合が決まらなると何もできないとおっしゃるかもしれないが、実際6年生の時に統合して、先生の教育も終わりましたと統合して、3校一緒になった学校で6年生を過ごしましょうといっても、申し訳ないけど、まだ実験段階だと思う。ここで、完璧なもので、6年生で、そこを卒業させてあげられるのかっていったら、無理なんじゃないかと思う。もっとスケジュールを見直してほしいと思う。ここでイエスカノーかすぐ答えをいただきたいと言ってるわけではなくて、スケジュールありきで動いているようにしか見えないので、お伝えしようと思った。あと、先日の意見交換会の議事録を見させていただいたが、日比崎小学校の学区の件で、見直しをというので、考えていませんっていうところで、日比崎学区の方も、卒業生も地域の方もいらっしゃって、今学校に通っている子供たちもいて、住民感情を考えると、とてもではないが、その学区の見直しはできない、と書いてあったが、ちょっと今手元に持ってないので、一言一句違わない状態でこうだとは言えないが、そういうような意味のことが書いてあったと思うが、それは今土堂小学校に通っている子供も、土堂の学区に住んでいる者も同じだと思う。もともとすごく昔の話だが、日比崎学区の一部は土堂小学校だったということで、住民の方からお伺いしているので、それができないのかってなると、今の日比崎学区で住民感情を考えるととてもではないけどできないというのであれば、それは土堂学区の者には関係ない話なのか。

小柳学校教育部長

はい。これまで、議会であるとか、保護者や地域説明会の中で、日比崎小学校の校区のことについては、たくさんの方からご意見ご質問いただいた。その時いただいた質問の趣旨が、土堂小学校の児童数を増やすために、昔のような学区の割り振りに戻してほしいであるとか、土堂に隣接している地域を組み入れてもらえないかっていうことだったから、今回の統合とは、現在の統合で土堂小が置かれてる状況とは、これは違うんじゃないかなというふうに思っている。

保護者③

はい。別に統合をするからっていうことではなくて、統合の前から言われていた話だと思う。ここへ来て、住民感情を考えれば、とてもでは

<p>小柳学校教育部長</p>	<p>ないけどできないとおっしゃるので、土堂小学校の学区の者にも住民感情はありますよって言うので、今お伝えした。</p> <p>私が住民感情という言葉を使ったのかどうかちょっと定かではないが、そういう認識でおられるのであれば、それは、やはり今の日比崎小学校卒業された方からすれば、やはり今の状況、この少子化の中で日比崎小学校も急激に人数が減っているから、そういったところでの学区の変更というのは、非常に耐えがたいものがあるんじゃないかなというふうに思う。もちろん、今回の再編の案に出させていただいているけれども、土堂小学校の保護者の方や地域の方から様々な意見をいただいている。当然受け入れられないであるとか、耐震化してほしいという声もたくさん届いているのは当然認識した上で、今日もこの場合におらせていただいている。</p>
<p>保護者③</p>	<p>はい。そうですね。なので、できないとか、住民感情がとかれて言われてはいるが、できない理由は住民感情でと言われても、ちょっと納得できないので、きちんとした理由をいただきたいなと思う。ずっと言われてることだが、何かちゃんとした答えが聞けてないなって思っている。</p>
<p>宮本教育長</p>	<p>学区の見直しについては、私が校長の時からそういう話も出ていた。私もこの問題については、この4月になってからかなり考えた。私が校長をしていた土堂小学校の令和元年度の秋に、土堂小学校の校舎の耐震性に問題があるから、早急に安全を確保するために栗原小学校に転校するという案が教育委員会から示された。そのとき私すごくショックだった。これは、土堂小学校の子供たちや保護者の方もかなりのショックだったんじゃないかと思う。だから簡単に学校を変わるっていうのは、誇りを持って土堂小学校に通ってらっしゃる方にとっては、大変ショックな話であったと思う。そういう学区の見直しということと関連させて言えば、日比崎小学校の皆さん、今度この地域の方は来年度から土堂小学校に聞いてくださいってことになるわけですよ、そうなったら、相手の立場になって考えたときにどういうふうな気持ちになるかってことを考えたときに、皆さんが、土堂が栗原小学校に転校しなさいって言うふうに言われたときと同じような感情を、今度日比崎小学校の方が感じられるような、そういう話なんだと思う。</p>
<p>保護者③</p>	<p>分かります。そこをだから、栗原小学校に転校をという話が出た時</p>

<p>宮本教育長</p>	<p>も、千光寺公園に上がれという話が出た時も、今回の統合もだが、スケジュールが短すぎると思う。もっと昔から出ている話であれば、例えば、入学した時の1年生が卒業するまでは、好きな方を選んでもいいとか、どちらでも好きな方行ってもいいとか、柔軟な考え方で、長いスパンで見て考えればよかったんじゃないかなと思っている。</p> <p>保護者の方や子供たちのことを考えたときに、ゆとりのあるスケジュールでやるっていうのもすごく大切なことをおっしゃってくださってると思うし、今、別の考え方としては、今、仮校舎で過ごしている子供たちを、私も見に行ったが、やっぱり仮校舎で過ごしているっていうのは、これは早くやはり解消していきたい、そういう考え方。だから、例えば1年、それだけ仮校舎で過ごす時間が長くなるわけだ。だから、やはり、早くそういった仮校舎での学習生活を早く終わって、きちんとした校舎で学習ができるようになっていう考え方、どちらもあると思う。ゆとりのあるそのスケジュールでやっていくっていうのも大切な考え方だと思うし、一刻も早く仮校舎での生活を終わらせて、きちんとした校舎で学習ができるようにする。どちらも正解だと思うが、今私たちは早く仮校舎での生活を終わってもらってほしい、そちらの方を優先して、今物事を進めてご提案している。そういうことだ。</p>
<p>保護者③</p>	<p>教育委員会としての意見は分かるが、今、仮校舎で過ごしている状況が良くないっていうが、仮校舎が駄目なのか。でも、仮校舎に移動するんですよね。</p>
<p>宮本教育長</p>	<p>土堂の場合、千光寺公園ですよね。ですから、かなり、千光寺公園の方に仮校舎を建てる前も、いろんな野犬の問題だったりとか、危険性のあるところだったり、雨が降ったら道がふさがって孤立するんじゃないとか、それから通学に時間がかかる、学校が終わって塾に行こうと思っても距離もあるし、時間もかかる。前のときの方が利便性が良かったわけじゃないですか、そういうことからすると、非常に不便になったところに行ったっていうようなこともあって、今もきっとそういうことでいうと、昔の方が利便性がよかったから、そういうことを感じられている保護者の方もたくさんいらっしゃるんじゃないかと思う。そういうこともあるし、仮校舎は安全性のある仮校舎であるけれど、ただこれが望ましいあり方ではない。ですから、一旦早く仮校舎を終わって、今の長江中学校、それから長江小学校仮校舎で生活している学習しているところに下りてきていただいて、早く、スケジュール的にちよっ</p>

<p>保護者③</p>	<p>ときついスケジュールを提案していて恐縮だが、そういった望ましい姿を早く解消していきたいというのが今の教育委員会の案である。</p> <p>そうです。教育委員会としての案ですよ、その長江中のところに統合した小学校ができて、利便性も高まるわけでもないし、仮校舎であるし、正直、仮校舎の工事中に統合し、新しい校舎ができている横で勉強し、今度解体工事が行われているときに中学校3年生で卒業する。落ち着かない状況で、正直、尾道市の学校に通わせていることを後悔している。せめて新しい学校ができてからとか、ごめんなさい、上手くは言えないが、仮校舎が良くないと思ってるので早く解消したいですって、前回からずっと説明いただいているが、ちょっと納得いかない、理解ができない、わからないっていう感じで、同じ説明を伺っている状況で、全く理解ができていない状況だ。</p>
<p>宮本教育長</p>	<p>本当に大切なお子さんが学校に通ってらっしゃるのに、そういうこういった仮校舎から、今度は長江中学校のところに移ってまた新校舎ができたならそこに引っ越しをする。工事もあるって、そういう状況の中でお子さんが通学されされなきゃならないっていうのは本当に申し訳ない状態だと思う。だが、何とかそこを、今も申したように、本当に申し訳ない気持ちなんですけれども、仮校舎という望ましい形ではない今の形をより望ましい方へ持っていきたい。そのためにご協力をいただきたいというそういうお願いです。</p>
<p>保護者③</p>	<p>はい、お願いとしては分かったが、そのスケジュールに理解しているかと言ったら申し訳ないが、このスケジュールには納得できません。以上です。ありがとうございました。</p>
<p>保護者④</p>	<p>よろしく申し上げます。すみません。たびたび。土堂小学校の保護者です。今スケジュールのことを2人の方が言われたが、本当にいい状況になるのであれば、早く早くっていうの分かるが、今、宮本教育長さんは、今の千光寺の環境よりも、長江の仮校舎の環境の方がいいって思われてるっていう印象を受けたが、実際通ってる子供たちにとってはどっちがいいのかって言うと、今、仮校舎に移動してやっと、慣れてきた頃である。やっぱり落ち着いて生活してると思う。そんなに問題もなく、野犬とかの問題はあるが、やっぱり子供の心の安定や環境の変化、そういった部分を考えてときに、果たして今よりも、長江小学校の仮校舎がいいとは、やっぱり私たち土堂小学校の保護者の立場からは思え</p>

	<p>ない。だから、さっき小柳部長さんが、仮校舎の解消が令和7年っておっしゃった気がするが、仮校舎が解消されるわけではなくて、また違う場所の仮校舎に行くっていう、慣れない場所に行くっていう、子供たちにとっての、やっぱり心と体の負担っていうのが増えるので、その子供たち目線でもやっぱりもう一度考えていただきたいと思います。以上です。</p>
<p>教育委員会事務局</p>	<p>時間になりましたので。次は最後の質問にさせていただきたいと思いますが、ございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは最後に小柳学校教育部長の方から、閉会の挨拶をさせていただきます。</p>
<p>小柳学校教育部長</p>	<p>それでは失礼いたします。本日は、第2回保護者説明会として、主には2月5日以降の取組内容について報告させていただくとともに、小中一貫教育校の教育内容や通学の安全対策について説明させていただきました。出席されている皆様方からは、今後の予定ということで、PTAへの説明する機会があるのかとか、通学路の安全対策、耐震化や、土堂小の存続や、三幸小学校の統合の経緯、また、今後のスケジュールについて、やはりちょっと無理があるのではないかと、様々なご意見をいただきました。スケジュールについては様々な意見があると思いますけれども、以前示させていただいたA3版のスケジュールについては、皆様方から統合の方向性のある一定の情勢といいますか、これならやってみましょうというようなことになっていけば、ああいったスケジュールでさせていただきたいということでお示しをさせていただいております。開校準備委員会が9月または10月からのスタートということですから、実質1年半ぐらいの中で新しい学校に向けて取組を進めます。私達も、今こういうふうにご理解をいただくように説明会をさせていただいておりますけれども、その一方では、開校準備委員会がいっつもスタートできるようにその中身についても、今、検討しております。ただ、これがスタートできるのはやはり、議会等のご理解をいただいた中でのスタートになるというふうに思っています。本日はいただいた意見も踏まえ、また明日から、地域説明会もありますので、新しい学校について、さらに皆様方に理解していただくように対応させていただきます。教育委員会とすれば未来を担う子供たちのために、尾道のモデルとなる小中一貫教育校を強い思いを持って実現させたいと思っております。今後も、教育内容の充実に向けた視察や研修や通学の安全対策等について取り組んでまいります。本日は第2回保護者説明会に</p>

お集まりいただき、どうもありがとうございました。

20:40 終了